

令和5年度事業報告

定款第39条（事業報告及び決算）に基づき、
本会の令和5年度の実業報告を行うものである。

1. 会員現況
2. 組織及び業務の分担概要
3. 会議等の概要
 - (1) 総会、(2) 理事会、(3) 顧問・評議員会、(4) 各種委員会
4. 運営・広報事業の概要
5. 国際関係事業の概要
6. 催物事業の概要
7. 調査研究事業の概要
8. 設立50周年記念事業の検討概要
9. 表彰（功績賞、功勞賞）の選考概要
10. 研究助成（研究助成部門、研究奨励部門）の選考概要

令和5年度事業報告

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により活動の制約がなくなったことから、会員のニーズ等に基づき、トンネル技術者にとって必要と考えられる各種の事業を積極的に実施した。

運営・広報事業では、本会の活動指針である「JTAビジョン」を踏まえ、関連諸事業の実施等に努めた。昨年度に実施した広報・情報発信に関するアンケート結果を踏まえ、会員専用ウェブページを改善するとともに、新たにSNSやメールマガジンによりイベント情報等を積極的に情報発信した。また、委員会活動成果としての図書を広く頒布した。

国際関係事業では、ITA活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。また、わが国のトンネル技術の存在感や影響力を国際的に高めるため、ITAにおける責任ある地位・立場を得る諸活動について検討した。

催物事業においては、当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図った。また、設立50周年記念事業の実施計画に関する検討を実施した。

調査研究事業では、技術委員会の下で、トンネルや地下空間の建設および維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに応えるよう実施した。受託業務においては、学識経験者からなる委員会において審議し、委託者の期待に応えるよう実施した。

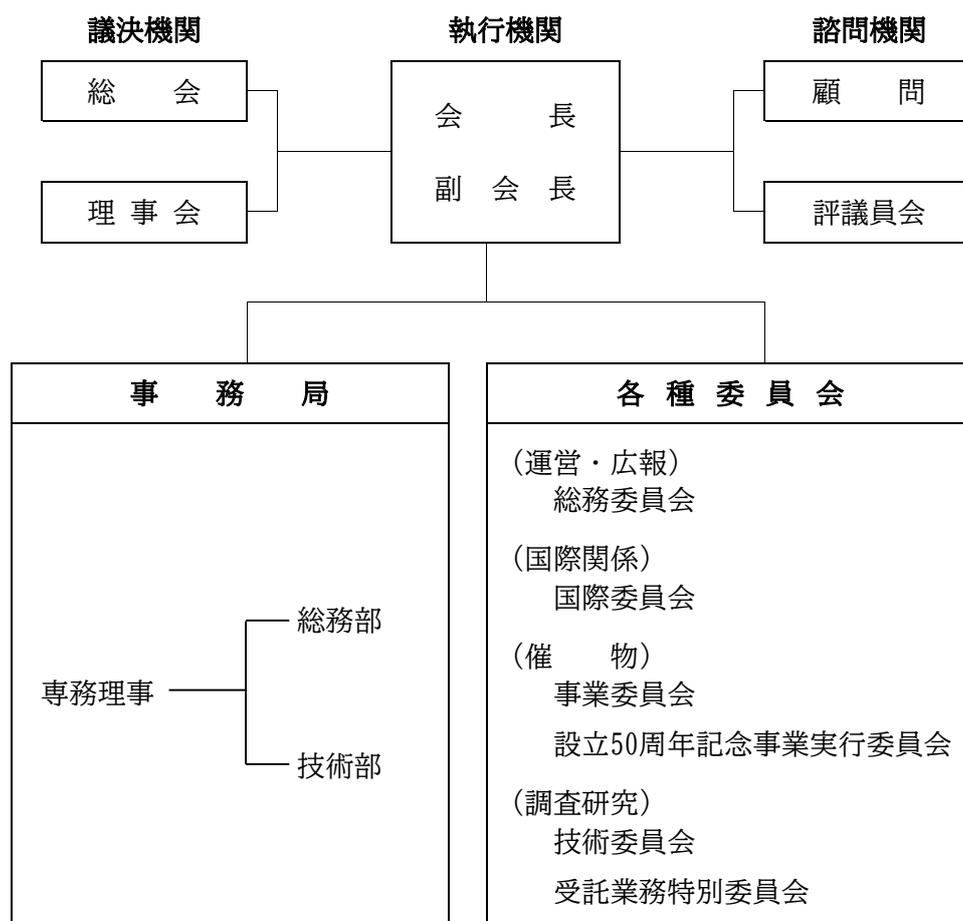
1. 会員現況

1975年（昭和50年）以降2024年（令和6年）3月までの会員現況の推移は、次のとおりである。

		会員数（名）								
年月 会員種別	1985.3	1995.3	2005.3	2015.3	2020.3	2022.3	2023.3	増	減	2024.3
正会員	2,098	1,901	2,054	1,286	1,236	1,233	1,223	87	▲ 115	1,195
団体会員	228	282	359	202	203	201	203	3	▲ 3	203
特級	3	3	3	1	1	1	1	0	0	1
特A級	—	28	24	23	23	23	23	0	0	23
A級	34	9	12	5	5	5	5	0	0	5
B級	16	20	16	10	10	10	10	0	0	10
C級	30	30	21	15	15	15	15	0	0	15
D級	145	192	283	148	149	147	149	3	▲ 3	149
個人会員	1,870	1,619	1,695	1,084	1,033	1,032	1,020	84	▲ 112	992
一般会員	—	—	—	866	813	810	799	34	▲ 61	772
推薦会員	—	—	—	206	206	207	208	44	▲ 46	206
特別会員	—	—	—	12	7	10	8	6	▲ 4	10
名誉会員	—	—	—	0	7	5	5	0	▲ 1	4
学生会員	—	—	—	—	—	5	3	3	▲ 2	4
賛助会員	—	—	—	169	205	216	215	69	▲ 50	234
計	2,098	1,901	2,054	1,455	1,441	1,454	1,441	159	▲ 167	1,433

摘要；1986年 特A級会員を設置、2007年 作業所単位会員を設置、2013年 作業所単位会員を廃止・賛助会員を設置
2020年 学生会員を設置

2. 組織及び業務の分担概要



(1) 議決機関

- 1) 総会を6月に開催し、協会の運営上重要な事項を、また、理事会を5回開催し、会務の執行に関する事項を審議した。なお、理事、監事の名簿は別表のとおりである(4頁参照)。

(2) 執行機関

- 1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐した。
- 2) 事務局では、専務理事が常勤し、会長及び副会長を補佐して会務を処理した。
- 3) 各種委員会については、4つの常設委員会において会務を分担した。また、設立50周年記念事業実行委員会を設けて活動した。受託(請負等)業務については、9つの特別委員会・検討会を設け、業務を実施した。

(3) 諮問機関

- 1) 顧問・評議員会を5月と11月に開催し、会長の諮問に応じた。なお、顧問・評議員の名簿は別表のとおりである(4頁参照)。

一般社団法人日本トンネル技術協会
理事・監事・顧問・評議員名簿

令和6年3月末現在

(敬称略)

区分	氏名	所属	区分	氏名	所属
会長	菊川 滋	(一財)橋梁調査会	顧問	萩原 浩	
副会長	長谷川 雅彦	(独)鉄道・運輸機構	//	小森 博	
//	押味 至一	(一社)日本建設業連合会	//	谷口 博昭	(一財)建設業技術者センター
専務理事	時政 宏	(一社)日本トンネル技術協会	評議員	福井 勝則	東京大学
理事	牟田 広繁	中日本高速道路(株)	//	竜澤 宏昌	(独)水資源機構
//	永田 順宏	西日本高速道路(株)	//	大野 昌仁	(一社)日本建設業連合会
//	加古 聡一郎	首都高速道路(株)	//	真下 英人	(一社)日本建設機械施工協会
//	堀口 知巳	(独)鉄道・運輸機構	//	良峰 透	東日本高速道路(株)
//	大石 敬司	東京地下鉄(株)	//	大江 慎一	本州四国連絡高速道路(株)
//	坂口 淳一	東京都交通局	//	金治 英貞	阪神高速道路(株)
//	森口 敏美	鹿島建設(株)	//	毛利 哲明	(株)電源開発
//	中満 光広	清水建設(株)	//	襲岩 滋之	東京都下水道局
//	嘉藤 好彦	(株)熊谷組	//	杉山 和久	(株)大林組
//	見喜 一郎	(株)鴻池組	//	白川 賢志	大成建設(株)
//	岩田 充弘	(株)竹中土木	//	湯山 和利	(株)奥村組
//	大場 秀彦	鉄建建設(株)	//	川崎 茂信	五洋建設(株)
//	大友 峰春	日本国土開発(株)	//	宮澤 竹久	佐藤工業(株)
//	加藤 一郎	(株)安藤・間	//	後藤 良平	東亜建設工業(株)
//	東福 忠彦	前田建設工業(株)	//	岩井 健	東急建設(株)
//	平 喜彦	三井住友建設(株)	//	武氣 士郎	飛島建設(株)
監事	齊藤 誠	東日本旅客鉄道(株)	//	木村 雅哉	西松建設(株)
//	大林 東壽	東洋建設(株)	//	岡野 利喜造	(株)フジタ
//	清原 啓太	戸田建設(株)	//	山崎 政俊	(株)不動テトラ
			//	田野 慎一郎	青木あすなろ建設(株)
			//	福武 栄一	(株)大本組
			//	鈴木 明	(株)銭高組
			//	高木 健二	大豊建設(株)
			//	山田 裕司	若築建設(株)
			//	田中 宏征	日本製鉄(株)
			//	杉山 雅彦	JIMテクノロジー(株)
			//	入江 健二	事業委員長 (メトロ開発(株))
			//	西村 和夫	技術委員長 (東京都立大学)
			//	今井 智満	国際委員長 (中日本高速道路(株))

役員構成：会長1名、副会長2名、専務理事1名、
理事16名、監事3名(役員計23名)
顧問3名、評議員30名

3. 会議等の概要

(1) 令和5年度定時総会

日 時： 令和5年6月8日（木）16：00～16：40

場 所： 主婦会館プラザエフ 7階 カトレア

出席者： 出席社員 社員総員 1,229名中 929名（76%）

出席 117名、書面による議決権行使 72名（全ての議案に賛成）、
委任状 740名

出席役員 理事：菊川滋、松崎薫、藤井元生、齊藤誠、湯山和利、
嘉藤好彦、宮澤竹久、岩田充弘、木村雅哉、小島伸介、時政宏
以上 11名

監事：並川賢治、森藤眞治、大林東壽 以上 3名

（総会の成立）

時政宏専務理事が上記出席者を報告し、総会が成立した旨を告げるとともに、会員に対して総会の模様をインターネット配信していることを報告した。

（議長選出）

定款第15条の規定により、総会の議長を菊川滋会長にお願いし、菊川滋会長から挨拶があった。

（議事録署名者）

議長から、定款第19条第2項の規定により、総会議事録の署名人として、議長の他、出席会員の金治英貞氏、岩田充弘氏にお願いしたい旨を諮ったところ、全員異議がなく了承、選出された。

（議 事）

菊川議長は、議案の議事に入る旨、宣した後、

(1)第1号議案（報告事項）令和4年度事業報告

(2)第2号議案（審議事項）令和4年度事業収支決算

上記2件を一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和4年度事業報告について、会員現況、組織及び業務の分担概要、会議等の概要、各種委員会の活動状況（運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業）、表彰の選考概要、及び研究助成の選考概要の説明があった。

引き続き、定款第39条の規定に基づき定時総会の承認事項である令和4年度事業収支決算について、9種類の財務諸表等のうち正味財産増減計算書を用いて説明があった。経

常収益は 303,858 千円、経常費用は 238,994 千円の決算となり、当期一般正味財産額は 64,864 千円の増額で、一般正味財産残高は期首 177,709 千円から期末 242,573 千円に増額となった旨の説明があった。

引き続き、並川賢治監事から監査結果の報告があった。

菊川議長が第 1 号議案について質問を求めたところ発言がなく、了承された。

次に、菊川議長が第 2 号議案について質問を求めたところ発言がなく、採決した結果、異議がなく、原案どおり承認された。

(3)第 3 号議案（報告事項）令和 5 年度事業計画

(4)第 4 号議案（報告事項）令和 5 年度事業収支予算

次に菊川議長は、上記 2 件について一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和 5 年度事業計画について、運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業及び設立 50 周年記念事業の概要の説明があった。

次に、先の理事会で承認された令和 5 年度事業収支予算について、損益ベースの会計予算書により説明があった。経常収益は前年度予算から 461 千円増額の 242,408 千円、経常費用は前年度予算から 4,173 千円減額の 232,305 千円とし、次年度以降の事業が円滑に実施できるよう当期一般正味財産額の増額を確保するよう計画している旨の説明があった。

菊川議長が第 3 号議案及び第 4 号議案について質問を求めたところ、発言がなく、了承された。

(5)第 5 号議案（審議事項）理事及び監事の選任

菊川議長は、上記の件について事務局の説明を求めた。

定款第 12 条第 2 号、第 21 条第 1 項の規定により、理事及び監事の選任を諮るものであり、本総会終了を以って任期満了となる理事の菊川滋氏、深沢成年氏、押味至一氏、松崎薫氏、関本宏氏、木村雅哉氏、山崎政俊氏の 7 名、監事の並川賢治氏、森藤眞治氏の 2 名、及び辞任の申し出があった理事の藤井元生氏、齊藤誠氏、高田悦久氏、小島伸介氏、中西隆夫氏、毛利哲明氏、杉山和久氏、湯山和利氏、宮澤竹久氏の 9 名に対し、先の理事会で推薦された理事 16 名及び監事 2 名の候補者の紹介があった。

菊川議長が第 5 号議案について質問を求めたところ発言がなく、推薦された候補者を一名ずつ諮った結果、それぞれ異議がなく、下記のとおり選任が承認された。

再任の理事：菊川滋氏、押味至一氏

新任の理事：長谷川雅彦氏、牟田広繁氏、永田順宏氏、加古聡一郎氏、堀口知巳氏、
大石敬司氏、森口敏美氏、中満光広氏、見喜一朗氏、大場秀彦氏、
大友峰春氏、加藤一郎氏、東福忠彦氏、平喜彦氏

新任の監事：齊藤誠氏、清原啓太氏

(その他)

事務局から令和5年度事業を実施するにあたり、先の理事会で承認された常設委員会の委員長の紹介があった。総務委員会委員長は理事の堀口知巳氏、国際委員会委員長は評議員の鈴木徹氏、事業委員会委員長は評議員の入江健二氏、技術委員会委員長は評議員の西村和夫氏、設立50周年記念事業実行委員会委員長は評議員の良峰透氏であり、総務委員長は新任、その他の委員長は留任である。

また、菊川会長から、令和5年度功績賞1名及び功労賞1名、並びに令和4年度施工体験発表会の最優秀賞2名を表彰した。

(閉会)

以上をもって本日の議事が終了したので、菊川議長は閉会を宣した。

(2) 理事会

令和5年度第1回 理事会

令和5年5月18日(木)開催 理事14名、監事3名 計17名出席

- ①令和5年度理事、監事、評議員
- ②特別会員の推薦
- ③常設委員会委員長の選任
- ④令和5年度定時総会議案

令和5年度第2回 理事会

令和5年6月8日(木)開催 理事11名、監事3名 その他1名 計15名出席
報告事項のみ

令和5年度第3回 理事会

令和5年6月8日(木)開催 理事14名、監事2名 その他2名 計18名出席

- ①会長、副会長の選定

会長：菊川 滋、 副会長：長谷川 雅彦、押味 至一

令和 5 年度第 4 回 理事会

令和 5 年 11 月 9 日（木）開催 理事 14 名、監事 1 名 計 15 名出席

①国際委員会委員長の交替

②評議員の交替

評議員辞任：森藤 眞治 評議員選任：岩井 健

評議員辞任：伊勢田 敏 評議員選任：大野 昌仁

③特別会員の推薦

④令和 6 年度定時総会開催日の選定

⑤JTA 表彰（令和 6 年度表彰）の募集開始

⑥JTA 規程類（国際活動事業基金取扱規程）の制定

令和 5 年度第 5 回 理事会

令和 6 年 3 月 15 日（金）開催 理事 14 名、監事 3 名、その他 1 名 計 18 名出席

①JTA 功績賞、功労賞（令和 6 年度表彰）の受賞者の決定

②令和 6 年度理事、監事、評議員の構成

③令和 6 年度定時総会議案要綱

(3) 顧問・評議員会

令和 5 年度第 1 回顧問・評議員会 令和 5 年 5 月 18 日（木）開催

顧問 2 名、評議員 17 名、その他 7 名 計 26 名出席

①令和 5 年度定時総会議案

令和 5 年度第 2 回顧問・評議員会 令和 5 年 11 月 9 日（木）開催

顧問 2 名、評議員 19 名、その他 4 名 計 25 名出席

①令和 5 年度事業活動及び上半期収支現況

②研究助成（令和 6 年交付）の募集

③令和 6 年度 JTA 表彰の募集

④JTA ビジョン関連事業の進捗状況

(4) 各種委員会（令和5年度開催状況）

委員会名	構成人員(人)	開催回数(回)	出席人数(人)	委員会名	構成人員(人)	開催回数(回)	出席人数(人)
1 総務委員会				6 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会			
委員会	15	3	36	委員会	63	2	124
企画運営幹事会	9	4	33	幹事会	49	2	57
広報小委員会	6	1	9	機械化施工小委員会	38	3	130
会誌 WG	14	12	147	7 中央アルプストンネル施工技術委員会			
ホームページ WG	5	1	-	委員会	28	1	51
2 国際委員会				シールド小委員会	12	1	31
委員会	16	3	35	ワーキング	15	1	20
I T A小委員会	19	4	122	8 効率的点検特別委員会	34	5	103
技術統括 WG	8	4	-	9 盤ぶくれ対策特別委員会	42	4	122
ヤングメンバーWG	19	2	35	10 改築設計施工技術特別委員会	30	1	17
海外情報小委員会	7	0	0	-1 会			
海外文献 WG	22	0	0	10 改築設計施工特別検討会			
ニュース WG	9	11	84	-2 検討会	20	3	62
対外広報 WG	14	5	62	避難連絡坑 WG	(4)	3	24
3 事業委員会	19	5	95	拡幅施工 WG	(4)	3	21
4 設立 50 周年記念事業実行委員会				11 矢上川地下調整池施工技術検討会	13	1	23
委員会	20	2	36	12 白金大深度特別委員会	13	0	0
幹事会	15	3	36	13 西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会	22	1	30
催物企画等 WG	8	5	46	14 相模鉄道本線（鶴ヶ峰付近）連続立体交差事業トンネル施工検討委員会	23	2	64
作品展示等 WG	11	8	88				
映像・記念史等 WG	12	7	79	合計	843	144	2,216
5 技術委員会							
委員会	15	1	13				
共通技術小委員会	15	0	0				
資機材検索リスト運営 WG	6	0	0				
山岳工法小委員会	20	1	18				
支保 WG	27	5	118				
地山評価 WG	17	4	58				
都市トンネル小委員会	19	1	16				
新技術 WG	(4)	4	20				
改善 WG	(8)	6	54				
安全環境小委員会	20	1	20				
肌落ち災害防止対策 WG	(7)	4	32				
自然由来重金属対策 WG	(6)	1	6				
保守管理小委員会	16	3	39				

(注1) リモート会議、メール審議を含む。
(注2) 構成人員の()は、委員会等を含む。
(注3) 出席人数が「-」となっているWG等の出席人数は上位の委員会等に含まれる。

(委員会数と構成員延べ人数)

区分	委員会	小委員会 幹事会	WG等	計	延べ 人数
常設	5	10	17	32	403
特別	9	3	2	14	440
計	14	13	19	46	843

令和5年度各種委員会名簿

(注) () 前任者

1. 総務委員会

委員長 堀口 知巳
 委員 橋本 雅道
 委員 (見坂 茂範)
 委員 中野 智行
 委員 (森 信哉)
 委員 上田 俊也
 委員 加古聡一郎
 委員 齊藤 誠
 委員 大石 敬司
 委員 坂口 淳一
 委員 森口 敏美
 委員 杉山 和久
 委員 嘉藤 好彦
 委員 白川 賢志
 委員 中満 光広
 委員 岩田 充弘
 委員 大場 秀彦

幹事 中野 清人
 幹事 佐久間 穰
 幹事 (村上 哲哉)
 幹事 谷口 信博
 幹事 山岸 隆史
 幹事 垣見 康介
 幹事 友野 雄士
 幹事 平井 卓
 幹事 久多羅木吉治
 幹事 藤本 克郎
 幹事 (松原 利之)
 幹事 森 正彦

委員 河田 皓介
 委員 日下 敦
 委員 小泉 大哉
 委員 山田伝一郎
 委員 (山崎 哲也)
 委員 真下 英人
 委員 西森 昭博
 委員 北村 義宜
 委員 大森 禎敏
 委員 濱崎 尚
 委員 淡路 動太
 委員 大塚 勇
 委員 満尾 淳
 委員 千葉 俊也
 委員 能登 和幸
 委員 保利 彰宏
 委員 小松原 涉
 委員長 砂金 伸治

1.2.2 ホームページWG

主査 須藤 敏明
 幹事 伊藤 哲
 幹事 青柳 隆浩
 幹事 安藤 拓
 幹事 平井 卓

1.1 企画運営幹事会

幹事長 上田 俊也
 副幹事長 山岸 隆史
 幹事 河村 和信
 幹事 大津 敏郎
 幹事 小泉 秀之
 幹事 伊藤 聡
 幹事 友野 雄士
 幹事 平井 卓
 幹事 内藤 将史

2. 国際委員会

委員長 今井 智満
 委員長 (鈴木 徹)
 委員 垣下 禎裕
 委員 福井 勝則
 委員 砂金 伸治
 委員 日下 敦
 委員 清水 健志
 委員 村田 重雄
 委員 白鳥 明
 委員 (中野 清人)
 委員 木梨 秀雄
 委員 青柳 隆浩
 委員 垣見 康介
 委員 大塚 勇
 委員 安田 亨
 委員 出本 剛史
 顧問 石田 積
 顧問 福本 勝司
 委員長 今井 智満

2.1.1 技術統括WG

主査 吉川 直孝
 幹事 小泉 悠
 幹事 新宮 康之
 幹事 辻川 泰人
 幹事 小出 孝明
 幹事 江口 康則
 委員 富田 哲平
 幹事 上村 城司

1.2 広報小委員会

委員長 三浦 孝智
 委員 木村 宏
 委員 (山田 隆昭)
 委員 野城 一栄
 委員 林 暢明
 委員 河越 勝
 委員 須藤 敏明

2.1.2 ヤングメンバーWG

主査 岡崎 泰幸
 顧問 河田 皓介
 顧問 小松原 涉
 幹事 小泉 大哉
 幹事 藤本 崇人
 幹事 内藤 貴裕
 幹事 遠藤啓一郎
 幹事 西村 友宏
 幹事 長田 翔平
 幹事 土田 隆史
 幹事 アドザムズマン
 幹事 秋山 崇裕
 幹事 持田新太郎
 幹事 藤井 貴裕
 幹事 王 偉沢

1.2.1 会誌WG

主査 木村 宏
 主査 (山田 隆昭)
 幹事 古川 慎治
 幹事 (野坂 周子)
 幹事 古谷 聡

2.1 I T A小委員会

委員長 砂金 伸治
 委員 杉本 光隆
 委員 岸田 潔

幹事 田村 賢人
 幹事 千葉 俊也
 幹事 松山 彰宏
 幹事 石破 和弥

2.2 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則
 委員 清水 健志
 委員 日下 敦
 委員 堀口 陽子
 委員 橋口 弘明
 委員 秋好 賢治
 委員 横尾 敦

2.2.1 海外文献WG

主査 福井 勝則
 幹事 日下 敦
 幹事 萩原 秀樹
 幹事 石原 陽介
 委員 橋口 弘明
 幹事 堀口 陽子
 幹事 岡 滋晃
 幹事 仲山 貴司
 幹事 山下 健司
 幹事 今泉 和俊
 幹事 藤原 浩一
 幹事 尾畑 洋
 幹事 一ノ宮俊明
 幹事 瀬谷 正巳
 幹事 谷 卓也
 幹事 畑生 浩司
 幹事 満尾 淳
 幹事 中山 卓人
 幹事 米田 新
 幹事 野間 達也
 幹事 久慈 雅栄

2.2.2 ニュースWG

主査 清水 健志
 幹事 志田 潤平
 幹事 広川 卓也
 幹事 天童 涼太
 幹事 福本 昌孝
 幹事 内藤 雅人
 幹事 篠原 慶二
 幹事 山下 高俊
 幹事 笹田 俊之

2.2.3 対外広報WG

主査 清水 健志
 幹事 一木慎太郎
 幹事 吉開 亮一
 幹事 小泉 悠
 幹事 佐々木翔太
 幹事 増田 弘明
 幹事 (菅原 千尋)
 幹事 吉田 祥二
 幹事 中村 真二
 幹事 秋好 賢治
 幹事 池田 廉
 幹事 尾畑 洋
 幹事 山田 宣彦
 幹事 谷 卓也
 幹事 淡路 動太

3. 事業委員会

委員長 入江 健二
 委員 古川 慎治
 委員 (野坂 周子)
 委員 佐原 圭介
 委員 中野 清人
 委員 坂田 聡
 委員 長野 克哉
 委員 長尾 和明
 委員 河邊 信之
 委員 西浦 秀明
 委員 岡村 正典
 委員 山岸 隆史
 委員 河越 勝
 委員 垣見 康介
 委員 友野 雄士
 委員 中原 法久
 委員 久多羅木吉治
 委員 戸田 一生
 委員 熊谷 幸樹
 委員 安田 茂人

4. 設立 50 周年記念事業実行委員会

委員長 良峰 透
 副委員長 佐原 圭介
 副委員長 久多羅木吉治
 顧問 入江 健二
 顧問 西村 和夫
 顧問 今井 智満
 顧問 (鈴木 徹)

委員 古川 慎治
 委員 (野坂 周子)
 委員 大山 裕司
 委員 (須山 翔太)
 委員 福井 令以
 委員 白鳥 明
 委員 志野 達也
 委員 坂田 聡
 委員 長野 克哉
 委員 長尾 和明
 委員 岡 滋晃
 委員 西浦 秀明
 委員 山岸 隆史
 委員 垣見 康介
 委員 友野 雄士
 幹事 大津 敏郎

4.1 幹事会

幹事長 佐原 圭介
 副幹事長 長野 克哉
 副幹事長 長尾 和明
 副幹事長 坂田 聡
 幹事 日下 敦
 幹事 吉川 直孝
 監事 鈴木 和也
 幹事 (藤田 健史)
 幹事 山崎 哲也
 幹事 岡 滋晃
 幹事 岡村 正典
 幹事 山岸 隆史
 幹事 河越 勝
 幹事 垣見 康介
 幹事 中原 法久
 幹事 安田 茂人

4.1.1 催物企画等WG

主査 長尾 和明
 副主査 山岸 隆史
 副主査 河越 勝
 委員 今地 洋佑
 委員 山崎 哲也
 委員 藤岡 大輔
 委員 上原 弓弦
 委員 小笠原和久

4.1.2 作品展示等WG

主査 長野 克哉
 副主査 岡村 正典

副主査 安田 茂人
 委員 前原 健治
 委員 (中島 陽)
 委員 日向 哲朗
 委員 草信 元春
 委員 野口 聡
 委員 森 隆
 委員 神谷 侑吾
 委員 兼松 亮
 委員 野口 達朗

4.1.3 映像・記念史等WG

主査 坂田 聡
 副主査 垣見 康介
 副主査 中原 法久
 委員 西端 智洋
 委員 鈴木 和也
 委員 (藤田 健史)
 委員 土田 淳也
 委員 (山本 一郎)
 委員 加藤 卓男
 委員 千葉 力
 委員 佐野 潤
 委員 永井 誠二
 委員 仲 哲路
 委員 阿部 喜生

5. 技術委員会

委員長 西村 和夫
 委員 日下 敦
 委員 澤田 和也
 委員 佐原 圭介
 委員 中野 清人
 委員 齊藤 誠
 委員 中田 隆一
 委員 長尾 和明
 委員 木梨 秀雄
 委員 中村 誠喜
 委員 青柳 隆浩
 委員 手塚 仁
 委員 垣見 康介
 委員 友野 雄士
 委員 内藤 将史

5.1 共通技術小委員会

委員長 澤田 和也
 委員 久富 浩二
 委員 日下 敦

委員 小林 康範
 委員 (中野 清人)
 委員 水谷 哲也
 委員 一寸木朋也
 委員 竹村 茂
 委員 長尾 和明
 委員 吉本 正浩
 委員 河邊 信之
 委員 垣見 康介
 委員 築地 功
 委員 大谷 達彦
 委員 北澤 剛
 幹事 三浦 貴幸
 幹事 (高氏 昇)

5.1.1 資機材検索リスト運営WG

主査 水谷 哲也
 副主査 中田 隆一
 委員 越田 健
 委員 井手 康夫
 委員 鈴木 康之
 委員 早川 文也

5.2 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介
 特別委員 上野 光
 委員 日下 敦
 委員 海瀬 忍
 委員 (山崎 哲也)
 委員 水野光一朗
 委員 恒川 明伸
 委員 (粂田 茂樹)
 委員 野城 一栄
 委員 河邊 信之
 委員 木梨 秀雄
 委員 倉田 桂政
 委員 青柳 隆浩
 委員 杉本 憲一
 委員 草信 元春
 委員 石井 三郎
 委員 友野 雄士
 委員 築地 功
 委員 大谷 達彦
 委員 末松 幸人
 委員 水谷 和彦
 委員 岡田 隆一

5.2.1 支保WG

主査 佐原 圭介
 委員 菊地 浩貴
 委員 加藤 友祐
 委員 (藤本 崇人)
 委員 小澤 啓明
 委員 稲葉 秀雄
 委員 倉田 桂政
 委員 西村 友宏
 委員 河村 巧
 委員 村上 和哉
 委員 大畑 雅義
 委員 富澤 直樹
 委員 北村 圭佑
 委員 (大森 禎敏)
 委員 草信 元春
 委員 石井 三郎
 委員 柴田 勝実
 委員 (金子 哲也)
 委員 川島 義和
 委員 三浦 雅也
 委員 松岡 正博
 委員 今村 新吾
 委員 熊谷 幸樹
 委員 鈴木 健
 委員 山仲 徹
 委員 三河内永康
 委員 小笠原裕介
 委員 (水谷 和彦)
 委員 中込 正貴
 委員 國村 省吾
 委員 五十嵐数馬

5.2.2 地山評価WG

主査 上野 光
 顧問 木谷日出男
 委員 増田 弘明
 委員 (小林 大助)
 委員 (鈴木 俊雄)
 委員 西金佑一郎
 委員 田中 姿郎
 委員 奥澤 康一
 委員 栗原 啓丞
 委員 片山 政弘
 委員 淡路 動太
 委員 小山 俊滉
 委員 山下 雅之
 委員 永井 誠二

委員 小熊 登
委員 松長 剛
幹事 中谷 匡志
幹事 石濱 茂崇
幹事 高馬 崇

5.3 都市トンネル小委員会

委員長 長尾 和明
委員 神田 大
委員 一寸木朋也
委員 小泉 秀之
委員 猪野 祐一
委員 田村 基
委員 岡 滋晃
委員 松原 健太
委員 福居 雅也
委員 中川 雅由
委員 河越 勝
委員 松田 昌彦
委員 井櫻 潤示
委員 高村勝之進
委員 久多羅木吉治
委員 島村 健司
委員 森 芳樹
委員 片岡希誉司
委員 五十嵐英史

5.4 安全環境小委員会

委員長 中野 清人
委員 久富 浩二
委員 森本 智
委員 福井 令以
委員 河村 和信
委員兼幹事 吉川 直孝
委員兼幹事 土屋 良直
委員兼幹事 加藤 友祐
委員兼幹事 (鈴木 俊雄)
委員兼幹事 (小林 大助)
委員 沼上 寿
委員 (嶋田 司)
委員 中島 陽
委員 嶋本 敬介
委員兼幹事 尾畑 洋
委員兼幹事 草信 元春
委員兼幹事 (吉野 隆之)
委員兼幹事 白井 隆裕
委員兼幹事 (三原 泰司)
委員兼幹事 (上岡 真也)

委員兼幹事 浅野健一郎
委員兼幹事 岡山 孝
委員兼幹事 中原 法久
委員兼幹事 田辺 昭博
委員兼幹事 大野 義範
委員兼幹事 園田 広樹

5.5 保守管理小委員会

委員長 齊藤 誠
幹事長 志野 達也
委員 久富 浩二
委員 小泉 悠
委員 大津 敏郎
委員 永井 政伸
委員 山本 努
委員 玉松潤一郎
委員 竹村 茂
委員 稲田 聡
委員 恒川 明伸
委員 (粳田 茂樹)
委員 野城 一栄
委員 永田 常雄
委員 北川 真也
委員 川端 康夫
幹事 鈴木 和也
幹事 (藤田 健史)

6. 北海道新幹線 トンネル施工技術委員会

委員長 三上 隆
副委員長 小山 幸則
委員 大島 洋志
委員 朝倉 俊弘
委員 東畑 郁生
委員 川村 信人
委員 五十嵐敏文
委員 藤井 義明
委員 岸田 潔
委員 安原 英明
委員 太田 岳洋
委員 倉橋 稔幸
委員 大津 直
委員 北川 修三
委員 小西 真治
委員 長谷川 淳
委員 野城 一栄
委員 進藤 州弘
委員 保田 尚俊
幹事 (浦越 拓野)
オブザーバー 林 華奈子
協力者 平野 邦彦
協力者 岡田 良平
協力者 小野 顕司
協力者 魚津 宗
協力者 芳賀 康司
協力者 井浦 智実
協力者 江島 武
協力者 山東 徹生
協力者 佐原 圭介
協力者 千代 啓三
協力者 神田 大
協力者 上野 光
協力者 長谷川正明
協力者 福山 恵夫
協力者 山本 武史
協力者 梶田 覚
協力者 内田 雅洋
協力者 米澤 豊司
協力者 小伊豆俊博
協力者 高氏 昇
協力者 阿部 信介
協力者 南 邦明
協力者 磯谷 篤実
協力者 須澤 浩之
協力者 西村 直樹

協力者 鈴木 隆
 協力者 藤原 哲男
 協力者 樋口 哲哉
 協力者 小林 等
 協力者 金子 伸生
 協力者 鶴谷 建太
 協力者 石井 秀和
 協力者 長井 崇徳
 協力者 吉村 直人
 協力者 斉藤 道真
 協力者 山口 洋介
 協力者 兼安 英紀
 協力者 松尾 健治
 協力者 上松 苑
 協力者 古屋 元規
 協力者 川端 一史
 協力者 長川 善彦
 協力者 藤川 博樹

6.1 北海道新幹線 トンネル施工技術委員会幹事会

幹事長 岸田 潔
 幹事 安原 英明
 幹事 太田 岳洋
 幹事 小西 真治
 幹事 (浦越 拓野)
 幹事 長谷川 淳
 幹事 野城 一栄
 幹事 進藤 州弘
 幹事 勝見 武
 幹事 福田 大祐
 幹事 保田 尚俊
 幹事 菊本 統
 協力者 小野 顕司
 協力者 芳賀 康司
 協力者 井浦 智実
 協力者 江島 武
 協力者 千代 啓三
 協力者 神田 大
 協力者 上野 光
 協力者 長谷川 正明
 協力者 福山 恵夫
 協力者 山本 武史
 協力者 梶田 覚
 協力者 内田 雅洋
 協力者 米澤 豊司
 協力者 小伊豆 俊博
 協力者 高氏 昇

協力者 阿部 信介
 協力者 南 邦明
 協力者 磯谷 篤実
 協力者 須澤 浩之
 協力者 西村 直樹
 協力者 鈴木 隆
 協力者 藤原 哲男
 協力者 樋口 哲哉
 協力者 小林 等
 協力者 金子 伸生
 協力者 鶴谷 建太
 協力者 石井 秀和
 協力者 長井 崇徳
 協力者 吉村 直人
 協力者 斉藤 道真
 協力者 山口 洋介
 協力者 兼安 英紀
 協力者 松尾 健治
 協力者 上松 苑
 協力者 古屋 元規
 協力者 川端 一史
 協力者 長川 善彦
 協力者 藤川 博樹

6.3 北海道新幹線、機械化施工小委員会

委員長 小山 幸則
 委員 杉本 光隆
 委員 中川 光弘
 委員 五十嵐 敏文
 委員 藤井 義明
 委員 勝見 武
 委員 岸田 潔
 委員 岩波 基
 委員 太田 岳洋
 委員 上原 元樹
 委員 牛田 貴士
 委員 小西 真治
 委員 進藤 州弘
 委員 野口 守
 委員 野々村 政一
 委員 菊本 統
 オブザーバー 上澤 真平
 協力者 岡田 良平
 協力者 小野 顕司
 協力者 魚津 宗
 協力者 芳賀 康司
 協力者 井浦 智実

協力者 江島 武
 協力者 山東 徹生
 協力者 佐原 圭介
 協力者 千代 啓三
 協力者 神田 大
 協力者 上野 光
 協力者 長谷川 正明
 協力者 福山 恵夫
 協力者 磯谷 篤実
 協力者 須澤 浩之
 協力者 岡田 岳彰
 協力者 西村 直樹
 協力者 金子 伸生
 協力者 吉村 直人
 協力者 上松 苑
 協力者 長川 善彦

7. 中央アルプストンネル施工技術委員会

委員長 朝倉 俊弘
 委員 小山 幸則
 委員 大島 洋志
 委員 西村 和夫
 委員 杉本 光隆
 委員 岸田 潔
 委員 小嶋 智
 委員 八嶋 厚
 委員 西垣 誠
 委員 太田 岳洋
 委員 常盤 哲也
 委員 海瀬 忍
 オブザーバー 長谷川 淳
 オブザーバー 古谷 佳久
 オブザーバー 梅村 哲男
 協力者 上田 日出男
 協力者 堀口 知巳
 協力者 瓜生 良知
 協力者 (浅見 均)
 協力者 山崎 貴之
 協力者 山東 徹生
 協力者 (玉井 真一)
 協力者 佐原 圭介
 協力者 奥原 祐治
 協力者 黒瀬 信弘
 協力者 末原 純
 協力者 (佐藤 貴史)
 協力者 直江 久永
 協力者 湊 敦之

協力者	跡部 拓己	委員	森本 智	委員兼幹事長	太田 裕之
協力者	(吉野 弘明)	委員	藤田 一宏	委員兼幹事	河邊 信之
協力者	福山 拓郎	委員	大津 敏郎	委員兼幹事	出口 大輔

**7.1 中央アルプストンネル施工
技術委員会シールド小委員会**

委員長	小山 幸則	委員	小林 康範	委員兼幹事	宮嶋 保幸
委員	西村 和夫	委員	山田 隆昭	委員兼幹事	青木 宏一
委員	杉本 光隆	委員	大澤 誠司	委員兼幹事	安藤 拓
委員	岸田 潔	委員	八木 弘	委員兼幹事	須藤 敏明
委員	津野 究	委員	谷口 徹也	委員兼幹事	川島 義和
協力者	三浦 貴幸	委員	松岡 茂	委員兼幹事	川端 康夫
協力者	(高氏 昇)	委員	須藤 敏明	委員兼幹事	盛重 知也
協力者	伊藤 浩	委員	西脇 敬一	委員兼幹事	中込 正貴
協力者	神田 大	委員	平間 昭信	協力者	碓本 大
協力者	(千代 啓三)	委員	土屋 智史	協力者	上杉 亮
協力者	黒瀬 信弘	委員	望月 誠一	協力者	本間 龍介
協力者	末原 純	委員	岡部 正	協力者	前川 和彦
協力者	(佐藤 貴史)	委員	重田 佳幸	協力者	中島 康介
協力者	直江 久永	委員	高橋 幸一	協力者	池端 信哉
協力者	跡部 拓己	委員	北澤 隆一	協力者	北川 真史
協力者	(吉野 弘明)	協力者	碓本 大	協力者	櫻谷 慶治
		協力者	上杉 亮	協力者	狛 忠弘
		協力者	白石 貴之	協力者	水野 希典
		協力者	長坂 渉	協力者	真有 祥太
		協力者	中島 康介	事務局	中野 清人
		協力者	吉川 貴司	事務局	山崎 哲也
		協力者	狛 忠弘	事務局	鈴木 俊雄
		事務局	上島 慶	事務局	増田 弘明
		事務局	中野 清人	事務局	藤本 崇人
		事務局	山崎 哲也		
		事務局	鈴木 俊雄		
		事務局	(小林 大助)		
		事務局	藤本 崇人		

**7.2 中央アルプストンネル施工
技術委員会ワーキング**

委員長	朝倉 俊弘	委員	西村 和夫
委員	小山 幸則	副委員長	砂金 伸治
委員	大島 洋志	委員	蔣 宇静
委員	岸田 潔	委員	菊本 統
委員	小嶋 智	委員	日下 敦
オブザーバー	高見健太郎	委員	上野 光
協力者	山崎 貴之	委員	嶋本 敬介
協力者	伊藤 浩	委員	藤田 一宏
協力者	奥原 祐治	委員	大津 敏郎
協力者	黒瀬 信弘	委員	清田 康明
協力者	末原 純	委員	海瀬 忍
協力者	(佐藤 貴史)	委員	岩尾 哲也
協力者	直江 久永	委員	山田 隆昭
協力者	湊 敦之	委員	八木 弘
協力者	跡部 拓己		
協力者	(吉野 弘明)		
協力者	福山 拓郎		

8. 効率的点検特別委員会

委員長	西村 和夫
副委員長	砂金 伸治
委員	石田 哲也

9. 盤ぶくれ対策特別委員会

委員長	西村 和夫
副委員長	砂金 伸治
委員	蔣 宇静
委員	菊本 統
委員	日下 敦
委員	上野 光
委員	嶋本 敬介
委員	藤田 一宏
委員	大津 敏郎
委員	清田 康明
委員	海瀬 忍
委員	岩尾 哲也
委員	山田 隆昭
委員	八木 弘

10-1. 改築設計施工技術特別委員会

委員長	砂金 伸治
委員	保田 尚俊
委員	林 久資
委員	小泉 悠
委員	寺戸 秀和
委員	嶋本 敬介
委員	大津 敏郎
委員	海瀬 忍
委員	岩尾 哲也
委員	山田 隆昭
委員兼幹事長	鈴木 雅行
委員兼幹事	日向 哲朗
委員兼幹事	伊藤 哲
委員兼幹事	秋山 崇裕
委員兼幹事	青木 宏一
委員兼幹事	福田 毅
委員兼幹事	須藤 敏明

委員兼幹事 鈴木 健
 委員兼幹事 今村 新吾
 委員兼幹事 森田 篤
 協力者 碓本 大
 協力者 上杉 亮
 協力者 北村 元
 協力者 中島 康介
 協力者 櫻谷 慶治
 協力者 粕 忠弘
 事務局 中野 清人
 事務局 山崎 哲也
 事務局 菅原 千尋
 事務局 沖原 穂高

10-2. 改築設計施工特別検討会

主査 鈴木 雅行
 委員 板谷 裕次
 委員 加藤 公章
 委員 福田 毅
 委員 須藤 敏明
 委員 植村 義幸
 委員 渡辺 章
 委員 鈴木 健
 委員 中込 正貴
 協力者 碓本 大
 協力者 上杉 亮
 協力者 前川 和彦
 協力者 中島 康介
 協力者 櫻谷 慶治
 協力者 粕 忠弘
 事務局 中野 清人
 事務局 山崎 哲也
 事務局 菅原 千尋
 事務局 鈴木 俊雄
 事務局 加藤 友祐

11. 矢上川地下調節池施工技術検討会

委員長 小山 幸則
 委員 砂金 伸治
 委員 岩波 基
 委員 菊本 統

委員 真下 英人
 事務局 中丸 博史
 事務局 黒崎 克彦
 事務局 堀 大佑
 事務局 菊池 勝吉
 事務局 清水 讓
 事務局 曾根 龍太
 事務局 原 貴史
 事務局 古野 貴史

12. 白金大深度特別委員会

委員 赤木 寛一
 委員 小泉 淳
 委員 小山 幸則
 委員 西垣 誠
 委員 神田 政幸
 事務局 大石 敬司
 事務局 伊藤 聡
 事務局 白子 慎介
 事務局 鈴木 章悦
 事務局 大塚 努
 事務局 橋口 弘明
 事務局 根本 早季
 事務局 岡ノ谷圭亮

13. 西武鉄道新宿線(中井駅～野方駅間)連続立体交差事業技術検討委員会

委員長 小山 幸則
 委員 大石 敬司
 委員 久野健一郎
 委員 安田 智
 委員 角 秀行
 委員 陰山 健司
 事務局 加藤 孝志
 事務局 山口 竜
 事務局 天野 清和
 事務局 近江 淳一
 事務局 山崎 健二
 事務局 堀田 竜生
 事務局 佐藤賢太郎
 事務局 関川 正彦

事務局 石井 勇希
 事務局 小林 豊
 事務局 廣瀬 裕也
 事務局 渡辺夕布子
 事務局 小澤 史周
 事務局 生駒 学
 事務局 東 伸一
 事務局 建川 和也

14. 相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業トンネル施工検討委員会

委員長 小山 幸則
 委員 小西 真治
 委員 伊藤 聡
 委員 (大石 敬司)
 委員 岩波 基
 委員 菊本 統
 委員 相崎 哲成
 委員 (川島陽二郎)
 オブザーバー 栗本 高史
 オブザーバー 古瀬 円
 幹事長 鈴木 知徳
 幹事 上田 武彦
 幹事 鎌倉 友之
 幹事 出浦 利彦
 幹事 濱 新司
 オブザーバー 土村 浩二
 オブザーバー 根本 進平
 オブザーバー (角本登与志)
 事務局 飯田 孝治
 事務局 高木 信一
 事務局 松浦 史朗
 事務局 (榎谷幸一郎)
 事務局 漆原 芳弘
 事務局 榎本 崇
 事務局 熊谷 憲二
 事務局 山西 雄大
 事務局 沼澤憲二郎
 事務局 (宮辻 孝史)

4. 運営・広報事業の概要

総務委員会委員長 堀口 知巳

本会の事業の運営方針や広報活動について全体調整を行うとともに、企画運営幹事会及び広報小委員会において、具体的な実施方策を検討した。また、国内外からの技術協力や協賛・後援依頼について検討した。

- ①令和5年度事業報告、決算及び令和6年度事業計画、予算案を検討した。
- ②令和元年度に策定したJTAビジョンを踏まえ、事業の実施のための具体策を検討した。

(1) 企画運営幹事会

幹事長 上田 俊也

- ③研究助成、JTA表彰、自主学習支援等の事業の実施に関して検討した。
- ④デジタル技術情報の会員への提供方法について検討を実施した。その一環として、施工体験発表会論文検索システムを構築し、運用を開始した。

(2) 広報小委員会

委員長 三浦 孝智

- ⑤前年度に実施した「広報・情報発信に関するアンケート」の結果を踏まえ、会員専用ウェブページの改善を実施するとともに、SNS（X（旧 Twitter））を活用した情報発信を4月から開始した。また、メールアドレスを登録している会員に対して、メールマガジンによりイベント情報等の積極的な情報発信を6月から開始した。
- ⑥ウェブサイト及び会誌「トンネルと地下」等により、広報活動の充実に努めた。
- ⑦各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るため、頒布図書資料の広報活動に努めた。

5. 国際関係事業の概要

国際委員会委員長 今井 智満

ITA活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。また、わが国のトンネル技術の存在感や影響力を国際的に高めるため、ITAにおける責任ある地位・立場を得る諸活動について検討した。

(1) ITA 小委員会

委員長 砂金 伸治

- ①ITAを通じてわが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、各種作業部会（WG）に参加するなどITAの場の活用に努めた。
- ②5月に開催された第49回ITA総会（ギリシャ・アテネ）に代表者を派遣した。また、団体会員と共同で技術展示を実施するなど、わが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、作業部会（WG）に参加し活動した。その結果報告は、会誌2023年10月号に掲載した。
- ③9月にウェブ開催されたITA臨時総会に対応した。
- ④2024年4月に開催される第50回ITA総会・WTC2024（中国・深圳）への対応方針について検討した。

(2) 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則

- ⑤トンネル技術に関する海外の雑誌のニュースおよび記事を抽出、翻訳して会誌に掲載した。
- ⑥わが国のトンネル技術を積極的に世界に発信するため、「Tunnelling Activities in Japan 2024」の編集作業を実施した。

頒布図書一覧

令和5年度は、これまでの研究成果を主とした下記図書資料 230 部 を頒布した。

刊行年度	図書番号	図 書 名	頒布部数	残部数
1985	6008	トンネル工事の安全－NATM編－		51
1990	90001	大深度地下利用技術（邦文）		8
	90002	大深度地下利用技術（英文）		7
1992	92006	トンネル工事の安全－斜坑・立坑編－		31
1998	98003	トンネル工事の安全－山岳トンネル機械掘削編－		4
1999	99001	トンネル工事の安全－山岳発破作業編－		5
2000	200010	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－テキスト－		25
	200011	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－モデル検討－	2	49
2001	200104	電力用立坑の性能照査型設計手引		13
	200105	覆工コンクリート施工の手引き		63
2002	200207	S U S 9 国際会議		20
2003	200303	シールドトンネルを対象とした性能照査型設計法のガイドライン		27
2005	200508	トンネル技術白書－山岳トンネル施工技術の現況と変遷－	1	97
2015	201504	都市部近接施工ガイドライン	44	156
	201505	設立40周年記念事業「シールド技術変遷史」	4	124
2018	201801	トンネル年報 2018		51
	201805	山岳トンネル工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	4	203
	201806	シールド工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	4	265
2019	201901	トンネル年報 2019		125
2020	202001	トンネル年報 2020		222
	202005	トンネル管理技術者のための維持管理に関するQ&A	114	125
2021	202101	トンネル年報 2021	1	246
2022	202201	トンネル年報 2022	8	9
	202202	山岳トンネル工法における防水工指針（改訂版）	24	293
2023	202301	トンネル年報 2023	24	0
合 計 25 件			230	2,219

6. 催物事業の概要

事業委員会委員長 入江 健二

当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図った。新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、積極的な実施に努めた。

① 現場研修会

毎年随時実施している国内の各種トンネル工事現場での研修会（見学会）は、新型コロナウイルス感染状況により令和2年度から休止していたが、令和4年9月に再開し、今年度は計画的に実施し、8回開催した。

② 施工体験発表会

第92回施工体験発表会（山岳トンネル部門）は、「新技術・創意工夫により課題を解決した山岳トンネル新設・改修工事－生産性・安全性向上、働き方改革－」を、第93回施工体験発表会（都市トンネル部門）は、「輻輳した地下空間での創意工夫による地下構造物築造工事－デジタル技術の活用・環境配慮・課題克服事例－」をそれぞれ課題として、10月5日（木）、6日（金）に、会場とリモート参加を併用したハイブリッド形式で開催した。

③ トンネル技術ステップアップ研修会

トンネル実務経験5～10年程度の中堅技術者を対象としたトンネル技術ステップアップ研修会（山岳部門、シールド部門）は、実施方法を検討中であり、今年度は開催を見送った。

④ 講習会

「山岳トンネル維持管理業務講習会（基礎編）」を12月8日に、「山岳トンネル維持管理業務講習会（実践編）」を令和6年1月31日に、各々、会場とリモート併用のハイブリッド型で開催した。

⑤ 講演会

令和4年度に実施した「シールド工事の施工の安全に関する講演会」を、5月8日～6月9日にオンデマンドで再配信した。

「トンネル分野のDX最前線」と題した講演会を11月28日にリモート形式で開催するとともに、12月5日～26日にオンデマンドで配信した。

令和5年度各種催物開催実績

催物名	開催日	参加者数	開催場所	CPD取得単位
(現場研修会)				
東京都落合水再生センター～みやぎ水再生センター間送泥管その3工事	2023. 4. 20	22	東京	2.0
横浜環状南線公田笠間トンネル工事	2023. 5. 25	25	神奈川	2.5
新名神高速道路宇治田原トンネル工事	2023. 6. 23	25	京都	3.0
首都圏中央連絡自動車道芝山トンネル工事	2023.7.14	23	千葉	2.5
水海川導水路トンネル2期工事	2023. 9. 19	19	福井	2.0
横浜環状南線釜利谷庄戸トンネル工事	2023.11.15	25	神奈川	1.5
国道349号丸森3号トンネル工事	2023.12.26	12	宮城	1.9
国道140号大滝トンネル工事	2024.1.26	7	埼玉	2.0
(施工体験発表会)				
第92回(山岳)「新技術・創意工夫により課題を解決した山岳トンネル新設・改修工事－生産性・安全性向上、働き方改革－」	2023.10. 5	181	東京 ハイブリッド	5.4
第93回(都市)「輻輳した地下空間での創意工夫による地下構造物築造工事－デジタル技術の活用・環境配慮・課題克服事例－」	2023.10. 6	122	東京 ハイブリッド	5.0
(講習会・研修会)				
第9回山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)	2023.12.8	15 36	東京 (会場参加) リモート	6.2
第8回山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)	2024.1.31	12 40	東京 (会場参加) リモート	5.9
(講演会)				
シールド工事の施工の安全に関する講演会(オンデマンド再配信)	2023. 5. 8 ～ 6. 9	568	オンデマンド	無
技術講演会「トンネル分野のDX 最前線」	2023.11.28 2023.12.4 ～12.26	277 66	リモート オンデマンド	無

注；ハイブリッドとは、会場とリモート参加の併用形式。

令和5年度施工体験発表会 優秀発表者(審査結果)

第92回(山岳)ならびに第93回(都市)施工体験発表会に係る発表者の表彰について審査した結果、下記のとおりと決定した(最優秀賞の論文は、会誌2024年6月号に掲載した)。

第92回(山岳)施工体験発表会 「新技術・創意工夫により課題を解決した山岳トンネル新設・改修工事－生産性・安全性向上、働き方改革－」

開催日：令和5年10月5日(木)

開催場所：機械振興会館(リモート併用開催)

発表者：16名

<最優秀賞>

受賞者 平本 竜也 (株)大林組

発表論文 硬質地山と地すべり地における供用トンネルとの近接施工
－ 松山自動車道 明神山トンネルⅡ期線 －

<優秀賞>

受賞者 今里 光紀 清水建設(株)

発表論文 ICTを活用した地下発電所掘削およびコンクリート施工についての報告
－ インドネシア アサハン第3水力発電所 土工工事 －

<優秀賞>

受賞者 肥後 宏紀 大成建設(株)

発表論文 長大・小断面トンネルにおけるレール方式による断層破碎帯の施工
－ 大沼トンネル避難坑峠下工区新設工事 －

第93回(都市)施工体験発表会 「輻輳した地下空間での創意工夫による地下構造物築造工事－デジタル技術の活用・環境配慮・課題克服事例－」

開催日：令和5年10月6日(金)

開催場所：機械振興会館(リモート併用開催)

発表者：12名

<最優秀賞>

受賞者 才川 欽也 (株)安藤・間

発表論文 都市部に新設する長距離・大深度シールドトンネルの施工
－ 葛西橋通り付近管路新設工事 －

<優秀賞>

受賞者 益本 有人 清水建設(株)

発表論文 市街地における巨石混じり砂礫層のシールド施工
－ 箱根小田原幹線4工区管渠築造工事 －

<優秀賞>

受賞者 小林 峻也 (株)大林組

発表論文 福岡主要都市天神の一般道および地下街工事直下を縦断する急曲線シールドの施工
－ 中部9号幹線築造工事 －

7. 調査研究事業の概要

調査研究事業では、自主研究と受託（請負等）研究を実施した。新型コロナウイルス感染症の5類移行により制約のない委員会活動となり、自主研究では、技術委員会のもと、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員のニーズに応えることに力点を置き、調査研究の実施に努めた。また、受託（請負等）研究では、6機関から10件の技術調査検討業務を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置・検討して成果を取りまとめ、委託者（発注者）の要望に応えた（受託業務一覧表：24頁参照）。

委員会毎の主な活動の内容は、以下のとおりである。

(1) 技術委員会

委員長 西村 和夫

今日的な課題や会員のニーズを把握するための情報収集に努め、得られた結果からテーマを選定し調査研究を実施した。各小委員会の活動概要は、以下のとおりである。

1) 共通技術小委員会

委員長 澤田 和也

①ウェブサイトの資材機械検索リストの内容の充実を図るため、関連各社へ最新資材機械情報の調査を実施し、調査結果を基に更新作業を実施した。

2) 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介

②地山変状対策（特に切羽）に関する新技術の情報交換結果を整理し、会誌に2回（2023年12月号、2024年1月号）にわたって報告を掲載した。

③自動化・生産性向上に関わる支保工の課題について情報交換した。

④「トンネル地質図の読み方」について課題を整理し、今後の方向性・方針を検討した。

3) 都市トンネル小委員会

委員長 長尾 和明

⑤シールド工事における新技術について、本会ウェブサイト上に技術情報検索ツールを作成するための調査検討を実施した。

⑥シールド工事のトラブル事例について、想定を含むトラブル事例集を作成するための調査検討を実施した。

4) 安全環境小委員会

委員長 中野 清人

⑦肌落ち災害防止対策について、対策事例アンケート調査様式の検討を実施した。

⑧自然由来の重金属を含むトンネルのずり処理対策について、対策事例及び文献のアンケート調査様式の検討を実施した。

5) 保守管理小委員会

委員長 齊藤 誠

⑨前年度に引き続き、トンネル維持管理業務講習会の基礎編および実践編について、これまでのアンケート結果等を踏まえて企画し、リモート併用形式により、基礎編を令和5年12月8日に、実践編を令和6年1月31日に開催した。

⑩過年度から情報交換してきたトンネル点検に関する新技術を整理し、「トンネル維持管理に関する最近の取組事例」として、本会のウェブサイトに掲載した。

令和5年度受託業務契約一覧

(契約額単位：円、税込)

№	委託者	委託件名	契約額	工期	摘要
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R3	33,055,000	R3.8.17～ R6.3.15	複数年契約
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R5	(契約済)	R5.12.26～ R8.6.25	複数年契約
3	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	8,745,000	R4.4.1～ R7.6.30	複数年契約
4	(独)鉄道・運輸機構 北陸新幹線建設局	大深度・長距離シールド技術調査(令和5年度)	9,460,000	R5.6.21～ R6.3.8	
5	㈱高速道路総合技術研究所	令和4年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	25,718,000	R4.12.24～ R6.1.27	複数年契約
6	㈱高速道路総合技術研究所	令和4年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	48,323,000	R4.8.9～ R5.7.4	複数年契約
7	㈱高速道路総合技術研究所	令和5年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	(契約済)	R5.8.26～ R6.7.20	複数年契約 (完成払)
8	㈱高速道路総合技術研究所	令和4年度トンネル改築の設計施工技术に関する技術資料作成	24,200,000	R4.6.10～ R5.5.5	複数年契約
9	㈱高速道路総合技術研究所	令和5年度トンネル改築の設計施工技术に関する技術資料作成	(契約済)	R5.6.17～ R6.5.11	複数年契約 (完成払)
10	神奈川県横浜川崎治水事務所 川崎治水センター	令和5年度河川改修工事 具単(その4) 矢上川地下調整池施工技术検討会運営及び調整業務	569,360	R5.4.28～ R5.12.28	
11	西武鉄道㈱	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴う シールド工事技術検討委員会運営業務	220,000	H30.7.12～	複数年契約
12	相模鉄道㈱	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業に伴う トンネル施工検討委員会運営業務	1,463,000	R4.11.24～ R9.3.31	複数年契約
13	東京地下鉄㈱	7号線品川～白金高輪間大深度地下の特定等に関する 検討委員会に伴う検討(2023年度)業務	550,000	R5.10.4～ R6.2.20	
令和5年度会計合計			152,303,360 (10件)		

次年度以降会計契約額

№	委託者	委託件名	2024(R6)年度 以降契約額	工期	備考
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R5	47,850,000	R5.12.26～ R8.6.25	継続 (契約額 47,850,000円)
3	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	15,532,000	R4.4.1～ R7.6.30	継続 (契約額 30,734,000円)
7	㈱高速道路総合技術研究所	令和5年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	53,504,000	R5.8.26～ R6.7.20	継続
9	㈱高速道路総合技術研究所	令和5年度トンネル改築の設計施工技术に関する技術資料作成	15,598,000	R5.6.17～ R6.5.11	継続
11	西武鉄道㈱	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴う シールド工事技術検討委員会運営業務	220,000	H30.7.12～	継続 (契約額 5,430,000円)
12	相模鉄道㈱	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業に伴う トンネル施工検討委員会運営業務	2,629,000	R4.11.24～ R9.3.31	継続 (契約額 5,973,000円)
合計			135,333,000		

8. 設立 50 周年記念事業の検討概要

設立 50 周年記念実行委員会委員長 良峰 透

一般社団法人日本トンネル技術協会は、令和 7 年度（2025 年度）に設立 50 周年を迎えることから、設立 50 周年記念実行委員会に幹事会及び 3 つの WG（催物企画等 WG、作品展示等 WG、映像・記念史等 WG）を設け、記念事業に関する検討を実施している。

① 実施方針

日本トンネル技術協会は、トンネル及び地下空間の建設並びにこれらの維持管理に関する調査研究を行い、地下利用技術の進歩向上を図ることによって、国土の保全と公共の福祉の増進に寄与することを目的に、1975 年（昭和 50 年）8 月に設立され、2025 年（令和 7 年）8 月をもって設立 50 周年を迎えることから、国民生活の安全向上、経済活動に不可欠なトンネル・地下空間に対する意識を高め、トンネル・地下空間や本会の活動の理解向上の一助とするため、記念事業を実施する。

設立 50 周年記念事業の実施に当たっては、「**社会を支え、未来へつなぐトンネル・地下空間**」をメインテーマとして各種イベントを企画、実施する。

② 実施計画（案）

イベントとして、特別講演会、フォトコンテスト、トンネル利用のアイデアコンテスト、親子見学会、トンネルに関する技術展示会等を企画する他、映像ライブラリーの整備、会誌記念号、JTA のあゆみの発行等を実施する予定である。

なお、一部のイベント（フォトコンテスト等）は令和 6 年度に実施する予定である。

③ 所要経費見込み

実施を計画している各種イベントの状況から、所要経費は 2,000 万円程度を見込む。

④ その他

記念事業に関しては、令和 6 年度も引き続き検討を実施する。

9. 表彰（功績賞、功労賞）の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度に「表彰制度」を設け、トンネル技術の発展に特に顕著な功績があったと認められる会員等に「功績賞」を、また本会の発展に特別の功労のあった会員等に「功労賞」を授与している。

令和5年11月10日から令和6年1月31日までの期間、令和6年度表彰の推薦を受け付けたところ、功績賞3名、功労賞2名の推薦があった。

推薦内容に関して、本会理事会で慎重に選考を行った結果、功績賞3名、功労賞2名の受賞者を決定した。

受賞者は、本会定時総会（令和6年6月6日（木）開催）において表彰する。

令和6年度受賞者

功績賞 3名

受賞者名	功績概要
西村 和夫	技術基準等の整備を通じて、日本のトンネル事業全般（建設から保全まで）の合理化、適正化に最新の知見で貢献した功績
中川 浩二	「臨床トンネル工学」を提唱し、山岳トンネルの合理的な建設に関する総合的な技術発展に寄与した功績
亀岡 美友	長年にわたり山岳トンネルの設計・施工技術検討などの各種委員会に幹事長、委員として参画し、トンネル技術の発展に貢献した功績

功労賞 2名

受賞者名	功労概要
宮本 雅文	トンネル技術の発展・伝承に貢献し、日本トンネル技術協会役員を長年務めた功労
トンネル技術者のための「地相」判読技術普及活動グループ	JTA 会員に向けたトンネル工事における地形・地質技術の重要性の理解と普及に向けた活動に関する功労

10. 研究助成（研究助成部門、研究奨励部門）の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度に「研究助成制度」を設け、トンネル・地下空間の建設及び維持管理に資する技術開発又は研究に対して、研究助成部門と研究奨励部門（40歳未満の若手研究者対象）の2部門で研究助成を実施している。

研究助成部門の助成額は1件につき単年度100万円以下、研究奨励部門の助成額は1件につき単年度20万円以下で、助成対象者は本会の個人会員であって、大学、高等専門学校及びこれらの附属機関に属する研究者としている。

令和5年9月1日から同年11月30日までの期間、令和6年度に助成する研究・技術開発を募集したところ、新規・継続合わせて6件の応募があった。申請内容に関して、本会に設けた研究助成審査委員会（松崎薫委員長）で、①研究の新規性・独自性、②研究計画の妥当性、③トンネル等事業への貢献度、④研究の進捗状況（継続案件のみ）の3（又は4）項目の評価を行い、今般、6件全ての採択を決定した。

なお、研究計画が複数年にわたるものについては、毎年度、申請受付手続きを行い、再度審査するものとしている。

令和6年度助成研究

部 門	助成研究テーマ	研究者	助成額
研究助成 部門 4件	掘削時の地山補強を目的とした補助工法の選定手法に関する研究（継続：令和5年度～7年度）	砂金 伸治 (東京都立大学)	100万円
	膨潤性岩盤モデルの開発と膨潤性地山トンネルの設計・施工の合理化（新規：令和6年度単年度）	星 啓太郎 (東北大学)	70万円
	地下水水質を用いたトンネル前方の地質構造推定の精度向上（新規：令和6年度～7年度）	太田 岳洋 (山口大学)	100万円
	山岳トンネル建設時における作業者の肌落ち災害低減に資する研究（新規：令和6年度～8年度）	林 久資 (西日本工業大学)	100万円
研究奨励 部門 2件	常時微動計測を用いた山岳トンネルの振動特性の把握に関する研究（継続：令和4年度～6年度）	河田 皓介 (東京都立大学)	20万円
	トンネルの担い手確保・育成のための切羽観察VRシステムの構築（新規：令和6年度～8年度）	岡崎 泰幸 (広島工業大学)	20万円